

【教育研究等環境】（教育研究等環境の整備に関する方針）

1. 大学全体の方針

本学の建学の精神を具現化するため、次の方針を掲げ、教育研究等環境の整備を進める。

2. 教育研究等環境に関する方針

1. 教育・研究活動にさらに貢献できるように、様々な面において、施設・設備等の環境整備を図り、安全及び衛生の確保に万全を期す。
2. 有限である予算や様々な資源が合理的かつ効率的に利用されるよう調整を行う。
3. 学生、教員、その他の大学施設利用者が安心して利用できるよう施設・設備の整備を行い、バリアフリー等への対応をはじめ利用者の多様な個性を尊重し、快適性に配慮したキャンパス環境の形成に努める。
4. 学生にとっての交通アクセス等の改善を関係機関に働き掛け、大学施設利用者の満足度向上を図る。
5. 全学的図書館機能の強化ならびに図書館サービスの充実を図るべく、次のことに取り組む。
 - ・ 教育、研究及び学修支援の多様なニーズに応えるために、学部構成に沿った資料の体系的な収集・保管に努め、電子化された学術情報についても容易にアクセスできる環境を整備する。
 - ・ 利用者サービスの向上のため学内全体の保存書庫機能を有する豊橋図書館新館建築の実現に向け計画を策定する。
 - ・ 学術資料に関する専門知識を持ち、学生及び教職員との連携を円滑に進め、実行できる職員の育成を図る。
 - ・ 所蔵資料のデジタル・アーカイブを進め、オープンアクセスとなるようにインターネット上への公開を推進する。
6. ネットワークシステム、教育研究システム、事務情報システムの安定稼働を維持しつつ、ICT環境整備中期計画に基づいた更新を行う。

ICT技術の動向を捉え、学生や教員のニーズにあった最適なシステムの導入、整備を実施する。
愛知大学情報セキュリティポリシーに基づいた情報の保全及び管理を行う。
7. 校舎の立地、歴史、周辺環境にも配慮して、校舎別の環境整備に努める。

ア. 名古屋校舎

現在の教育研究等環境が抱える課題及び改善点を把握すると共に、教育研究に関わる最新の社会的動向・ニーズ等を把握しつつ、近い将来迎える教育研究設備の更新に向けた中長期の校舎整備計画の検討を進める。なお、名古屋校舎の開発においては、名古屋市のささしまライブ24地区開発コンセプトである①環境、②国際歓迎・交流拠点、③まちづくり・にぎわいをコンセプトとした再開発計画に則り、名古屋市と緊密に連携をとりながら計画が進められた経緯があることから、引き続き同コンセプトに留意し環境整備を図っていく。

イ. 車道校舎

交通至便でありながらも、校舎面積・施設に限られていることを念頭に置きながら、高度な専門職業人の養成、さらには法人本部機能の集約を基本とする。

専門職大学院を中心とする専門教育の充実、高度な専門職業人の養成の拠点としての機能強化を図ると共に、近隣に住宅街を抱え交通の利便性が高いことを踏まえ、多様な活用を検討する。そのために必要な施設整備等を行う。

また、名古屋キャンパスとの一体的運用を視野に入れた校舎の有効活用も検討する。あわせて、年次計画を策定して修繕とオーバーホールを実施し、施設及び設備の維持に努める。

ウ. 豊橋校舎

2018 年度に学内承認された豊橋校舎の施設整備に係る方針を基に、豊橋校地のコンセプトを具現化するため、同校舎の施設整備に係る計画を策定する。現時点において老朽化が確認されている施設・設備は、修繕計画に従って更新・改修を図り、適切な維持に努める。また、教学委員会等の学内関係機関との連携及び利用者アンケートを実施する等して、施設・設備の利用状況の把握に努め、教育研究等環境の改善、向上の取り組みについて定期的に検証を行う。

以 上